この素晴らしき異世界

ナナツボシ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
この素晴らしき異世界

【Ｎコード】
Ｎ５５６７ＢＡ

【作者名】
ナナツボシ

【あらすじ】
【異世界ファンタジーです。ただ、一筋縄では行きません。】【実験的小説です。大まかなプロットはありますが、結末だけは決めてません】【強主人公ですが、色々と残念です】

1話（前書き）

プロローグな第一章。描写は敢えて薄くしてます。理由は後程わかる……ハズ。多分そうなる。

1話

暗闇の中、ひたすら目の前を掘る。幸い土は堅い岩盤に当たる事も無いので、サクサクと掘れる。

いや、決して柔らかい訳では無いのだ。赤黒い土は、本来なら結構硬いはずだ。だが俺のチートとも言える身体能力の前ではプリンのような柔らかさなのだ。

それにしてもこうして穴堀りを始めて何日になるだろうか？

と言うか２４時間おなじ景色な訳で、正直何日こうしてるかは分からない。

多分、１週間はこうしている。

事の起こりはこうだ。ある晩俺はいつものように床につき、枕元のライトを消した。時計は午後１０時だったと思う。翌日は１限目から講義があるから早寝したのだ。

普段夢など見ない俺だが、その日ははっきりと覚えている。それほど鮮明な夢だった。

何やら「私は神だ」等と自称するずいぶんと尊大な口の利き方をするくそ生意気な少女が現れた。

そして俺に向かってこういったのだ。

「お前に頼みがあるのじゃ。イディグダーグと言う世界が歪みで

崩壊寸前なのじゃ。そこで歪みを修正する為にお前の力を借りたい」

そうくそ生意気な少女は俺に言った。イディグダーグ？なんだそりゃ……俺はアホらしいと呆れたが、夢の中だし気が大きくなっていたんだな？そして魔がさした。俺は言った。

「おー行ってやろうじゃないか。この漢山崎雅樹に任せなさい！」

なんであんな事言ったんだろうか……とにかく俺がそう言うと、くそ生意気な少女はにんまりと笑ってこう言ったんだ。

「さすが妾が見込んだ男よ！ならば素晴らしい加護と共に送る事にしよう。感謝せよ？ではな。そなたに幸あらんことを……」

ふんぞり返った少女は、全く膨らんでない貧相な胸を張り、不敵な笑みを浮かべて俺を指差した。

次の瞬間、俺はジェットコースターのような落下感に襲われ、しばらくして気が付いたら穴の中だったと言う訳だ。

ただ正確には穴じゃないか……。なんだろ、地中深くにポッカリ空いた六畳ワンルームくらいの部屋だな。

出入口なんか無いし、ただ丸い空間なのだ。上も下も壁も、とにかく全面土なんだ。俺は暫く途方に暮れていたが、2時間ほどして気が付いたんだ。

――何故空気が無くならない？

――何故ここは明るい？

ま、不思議なんだけど考えてもわかりゃしない。ただ明るいのだけは分かった。壁から剥き出しになっている拳大の石ころが発光してるんだ。

あちこち調べたらかなりの数を発見した。触れても熱くはなくて、当たり前のようにひんやりしてる。不思議だな。

呼吸の方は考えても分からないから気にしない事にした。時間の無駄だろうし。そうして俺は覚悟を決めた。イディグダーグだかなんだか知らないが、取り敢えずこの状況をどうにかしようと。

それからはひたすら壁を掘る、掘る、掘る。

何だか身体が凄い馬力なんだよね。ブレスト泳法（いわゆる平泳ぎ）みたいに両手で土を掻けば、動かしたら動かしただけ掘れる。もうね？すごく気持ち良いんだ。

サックサクだよ。もぐらになった気分だな。なった事無いけど、多分そんな感じ。

最初いた空間から、少し斜め上に向かって横穴を掘る。掻いた土は後ろに蹴り避け、横穴が落盤しないようにゴロゴロ身体を動かして固めながら進む。

夢の中のくそ生意気な少女曰く、俺には加護とやらがあり、それは実際に備わっているようだ。ゴロゴロ転がれば、重機で踏み固めたように横穴は固まるんだ。俺はマジでもぐらの才能あるわ。いや、なりたかないけどさ。

後はカンテラ代わりに光る石を持ってたけど、掘った先からザクザク出るから持っていくのは止めた。

うーん……しかしここはどの辺なんだろな。まあとにかく掘るしか無いだろう。未だ一切景色が変わらないのだから。

こうして俺は1週間掘ってる訳だが、未だにゴールは見えない。一心不乱に掘り続けるが、何故か不思議と腹は減らない。考えたら怖い話だが、やはり考えた所で答えは分かるはずも無いので、取り敢えず不思議な事は加護のせいにした。

1週間穴を掘ると言う行動は、とにかく単純作業だ。故に退屈で死にそうになる。始めは鼻歌等を口ずさんでいたが、狭い横穴だから籠もったエコーがかかって意外と苦痛なので止めた。

次に始めたのは、小声で1人しりとりだ。虚しくなって5分でやめた。

それからはもう、無の境地だった。俺はマシンだ、唸れ心のエンジン！そういいながらとにかく掘る。

テレッテーテテテテットゥルットゥッ！

お前がやらなきゃ誰が掘る～
愛する世界を護るため～
今日も正義の穴を掘るぅ
右手のシャベルは炎を纏い、左手のシャベルは嵐を起こす
進め！進め！ヤマザキマサキぃ～
世界がお前を見つめてる～ぅ　ヤァ！

ヤァじゃねえし……気が付いたら自作の戦隊風主題歌歌ってるし……。

もうヤダ！おうち帰りたいよぉッ！！！！

とか絶叫してたら、目の前の壁が崩れて空間が現れたッ！！！！

お、おおお……

ゴーーーールッ！？

「や、やったぁ！やっと出口ぃ？ううっよかったぁ……」

ゴールしたと思ったら、そこには……

俺と同じようにトンネル掘ってる外人ぽい女が居た。

どゆこと？

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5567ba/

この素晴らしき異世界

2012年1月15日04時55分発行